

## 日本顕微鏡歯科学会 第16回学術大会・総会報告書

2019年4月27日(土)、28日(日)、29日(月)の3日間にわたり、東京の一橋講堂と如水会館にて日本顕微鏡歯科学会第16回学術大会・総会が開催されました。

本大会のテーマは「精密歯科治療を極める Perfection of Clinical Dentistry」として、大会長の古澤(東京歯科大学 歯内療法学講座教授)のもと海外からも約30名の参加者を含めて710名を超える盛大な大会となりました



### [1日目 4/27 土曜]

初日のハンズオンコースでは、モリタ様、ペンترونジャパン様2社に協賛いただき、それぞれ午前と午後で2回のセミナーが行われました。今回は対象業種を分けての試みで、歯科医師と歯科衛生士とに向けてのハンズオンが行われました。

#### ・ 株式会社モリタ

伊澤 真人 先生 「はじめよう！マイクロスコープ根管治療！！」

#### ・ ペンترونジャパン株式会社

増田 佳子 先生 「歯科衛生士こそ顕微鏡！」



株式会社モリタ



ペンترونジャパン株式会社

また土曜日には、一橋講堂 会議室において、認定審査会、各種委員会、理事会が開催されました。

[2日目 4/28 日曜]

大会長の三橋純先生  
(東京都開業)と、  
実行委員長の山田(東  
京歯科大学)  
による開会宣言が行わ  
れました。



続いて大会長の古澤に  
よる基調講演  
「精密歯科治療を  
極める」が行われました。  
その後、一般口演  
(8演題)が続きました。



また、一般口演と並行して、如水会館 スターホールにてシンポジウム C（前半）が開催されました。

- ・ シンポジウム C 「認定歯科衛生士はどのように顕微鏡歯科を学んでいるか？」



如水会館

座長 藤井 理絵（東京歯科大学歯内療法学講座）、浅井 知宏（丸紅歯科室）  
「認定歯科衛生士が長く活躍できる環境とは」 大河原 純也（茨城県開業）・  
水野 美穂  
「昨日の自分よりも成長したい！」 樋口 敬洋（福岡県開業）  
米可那・森田佳子



- ・ 企業フォーラム A、B

昼食時間にも関わらず、大盛況でした。

コルテンジャパン合同会社 北村和夫先生

「根管治療のパラダイムシフト

HyFlexEDM による根管拡大形成と GuttaFlow 2 を用いた根管充填」

カールツァイスビジョンジャパン株式会社 佐藤暢也先生

「OPMI を使用した歯内療法の発想から歯科衛生士による SPT やメンテナンスへの適用」

- ・ 特別講演「臨床研究法について」笹井啓史先生、鳥山佳則先生  
種々の学会で問題となっている、臨床研究法の詳細について解説して  
いただき、学会発表時の注意事項などを再度考える機会となりました。



- ・ シンポジウム A 「補綴処置の精密歯科治療を極める」  
エンドから補綴まで一連の流れでどのようにマイクロスコープが有用となる  
かを、歯内、補綴、技工のスペシャリストの先生方からご講演いただきました。  
顕微鏡はあくまで一機材であり、コンベンショナルな診査、診断、治療  
がいかにか大切に再認識できた素晴らしいご講演でした。

座長：菅原佳広(日本歯科大学新潟病院)、小林平（日本大学松戸歯学部）  
「インターディシプリナリーアプローチにおける手術用顕微鏡の活用」  
尾上正治先生（東京都開業）  
「補綴処置の精密歯科治療とマイクロスコープの活用方法について」  
佐氏英介先生（東京都開業）  
「補綴処置の精密歯科治療を極める 技工サイドからの提言」  
青木啓高（静岡県開業）





- ・ シンポジウム A 後にブックフェア、ポスター討論（6 演題）と、認定医申請用症例編集相談会が同時進行で行われました。同時進行にも関わらず、いずれも大盛況でした。
- ・ 懇親会は如水会館 スターホールにて行われました。余興として東京歯科大学ビッグバンドジャズ部リトルサウンズオーケストラより素晴らしい演奏を披露していただきました。



[3 日目 4 / 29 月曜]

- ・ 大会長受賞記念口演

「歯根構造の解析による歯根破折の解明」 三浦千晶先生

最終日は第 15 回大会で大会長賞を受賞された、三浦千晶先生による記念講演が行われました。

続いて、一般講演（5 演題）が行われました。

- ・ シンポジウム C「認定歯科衛生士はどのように顕微鏡歯科を学んでいるか？」  
座長 藤井理絵（東京歯科大学）、浅井知宏（丸紅歯科室）

「マイクロスコープは歯科衛生士と歯科医師とのインターフェイス」

鈴木 龍（静岡県開業）

「マイクロスコープから広がる可能性とその価値」

増田 梢

同時刻、如水会館にて  
シンポジウム C（後半）が開催され、  
最後に両日の総合ディスカッション  
が催されました。



・ AMED 講演

座長：辻本 恭久（日本大学松戸歯学部）

・ Todd Goldman（総括）

・ Randolph K. Shoup C.V.

A New Paradigm in Preparation Design Based on a Microscopic Analysis  
of CAD/CAM Capabilities and Limitations

・ William Linger

Multidisciplinary Dentistry Done 100% Through the Microscope

AMED から講師をお招きし、招待講演が行われました。今後の AMED と JAMD の交流が期待されます。



・企業フォーラム C、D

先日に引き続き、昼食時間にも関わらず大盛況でした。

株式会社モリタ 磯崎裕騎先生

「精密診療のための視覚強化についての考察 見落としなくスピーディーなシステムティックビューを中心に」

カーリーナシステム株式会社 櫻井善明先生

「見せなきゃ始まらない！ 顕微鏡歯科治療！！」

・シンポジウム B 「歯内-歯周疾患の精密歯科治療を極める」

座長：高橋 慶壮（奥羽大学歯学部）

「エンドから診た歯内-歯周疾患の精密歯科治療を極める」

牛窪敏博先生（大阪府開業）

「歯内—歯周病変への挑戦」

石川亮先生（大阪府開業）

一般臨床においても非常に難しい領域である歯内-歯周疾患に関し、各々の分野の著名な先生方より双方の見解をお話ししていただき、疾患のタイプを診断して介入することがいかに重要であるか、再度認識する機会となりました。



最後に、総会、代議委員会、表彰式、閉会式が行われました。  
 大会長賞には驚きの、学会長である三橋純先生が選出され、  
 最優秀ポスター賞には鈴木誠先生が選出されました。



最後に来年の福岡大会の大会長である  
 和田尚久先生（九州大学病院口腔総合診療科）に  
 最後のご挨拶と来年の抱負を述べていただき、  
 無事閉会となりました。





平成最後の大型連休中にも関わらず、多くの方に参加していただき、有意義な時間を過ごすことができました。

参加者、学会役員、学会事務局、協賛いただいた企業、そして東京歯科大学歯内療法学講座の諸氏、お手伝いいただきました諸先生方に、感謝を申し上げて大会報告とさせていただきます。



2019年8月 古澤成博、山田雅司 記